

第 79 回講演会<2026 年 6 月 12 日開催>

## トランプ時代のアメリカにおける分断とその背景

及川 順（執筆＝高地 薫）

■ 講演者……及川 順

(NHK 国際放送局 World News 部 編集長)

■ コメンテーター……中村 信之

(本学 外国語学部英米語学科 講師)

■ 司 会……高地 薫

(本学 外国語学部アジア言語学科 准教授 / グローバル・コミュニケーション研究所 所長)

本年度第一回、そして通算では第 79 回の GCI キャンパス・レクチャー・シリーズとして、米国での勤務・取材経験の豊富な及川氏を招き、第一次トランプ政権、そして現在の第二次トランプ政権におけるアメリカ社会の分断について講演をしていただいた。氏は、これまでの取材に基づき、『非科学主義信仰 揺れるアメリカ社会の現場から』（集英社新書、2022 年）、『引き裂かれるアメリカ トランプをめぐる Z 世代の闘争』（集英社新書、2024 年）を出版されている。



講師の及川氏

講演内容

種々の調査から、現在の「イランへの軍事行動」や「イスラエルへの感情」、あるいは「米輸入品への関税措置」や「移民政策」、「銃規制」という政策について、アメリカ国民の世論が分断していることを示したうえで、近年の大統領選の得票率を見ても著しい偏りがなく、そもそもアメリカ社会は分断されていることが指摘された。

そうした既存の分断が、トランプおよび彼を支持する人々の登場によって、より先鋭化した。2016 年の大統領選でトランプが掲げた“MAGA (Make America Great Again)”というスローガンは、彼らの進める排外主義的政治運動の名称ともなった。その価値観は、「かつては偉大だったが、移民、多文化主義、グローバルイゼーションで地位を失った」という前提から、それをアメリカ第一主義で覆し、より高度な経済保護主義を貫き、途上国からの移民を大幅削減し、伝統的価値観を奨励ないし強制するというものであった。

この MAGA 運動を強力に拡大した組織のひとつが、昨年暗殺されたチャーリー・カーク氏が代表を務めていた Turning Point USA (TPUSA) だった。TPUSA はアメリカらしい派手な演出を伴う集会を開催すると共に、主に大学キャンパスでの支持者獲得運動に力を入れている。そして彼らは、敵を悪魔として描き (demonize)、アメリカの伝統的な価値観 (core values) を取り戻そうとする。彼らの敵とは、リベラル・プロGRESSIVEであり、それを毒、憎悪、暗闇、憤慨、傲慢、そして

絶望に満ちたマルクス主義、全体主義の左翼と呼ぶ。それに対して彼らは「敬虔なキリスト教徒」であり、かつエリートの既得権益への不満を代弁する。しかし一方で、TPUSA の集会に来るのは「意識高い」学生たち、つまりエリート予備軍であるという矛盾、また人種の壁を越えるとしつつも運動の主体が白人であるという矛盾も内包している。

TPUSA は、大学キャンパスでの存在感を選挙における政治的影響力へと結び付けた。一方、民主党はこうした取り組みに匹敵する活動を展開できなかった。その代わりに、TPUSA 同様、若者のなかから反 MAGA 運動が出現した。彼らは、学生を組織化し、大学キャンパスでの影響力を再建するために、「The Unf\*ck America Tour」を立ち上げた。

こうしたアメリカにおける分断の深化について、実際に MAGA、そして反 MAGA の運動をする若者たちの生の声を交えて、解説された。

### コメント・質疑

コメンテーターの中村先生からは、歴史的観点、そしてジャーナリズムと歴史の化学反応という観点から以下のコメントがなされた。

共和政、自由主義の国として母国イギリス帝国と決別したアメリカは、自由を手にした一方、それを抑制する権力（大統領）をシス



会場の様子 (4-101 教室)



司会の高地先生 (左) とコメンテーターの中村先生 (右)

テムに組み込む矛盾を抱えていた。更に、建国期には予測できなかった最大の権力として、19 世紀にアメリカ資本主義が生まれた。福音主義や社会的福音で自由と権力が共存する矛盾に折り合いをつけようとしたが、その問題への明確な答えが見出せないまま現在に至っている。TPUSA と青年民主社会主義との対立も、アメリカ建国理念である自由主義と、それを脅かす権力を生み出す資本主義との間にある「未解決の問題」が根本にあるのではないか。

更に、取材で出会った政治家や、若者の中で、ポスト・トランプ (ないし数十年後のアメリカ) をけん引すると思われるような人物がいたかどうか、という質問がなされた。及川氏は、保守派では、取材を続けてきたが亡くなったチャーリー・カーク、それに、民主党下院議員アレクサンドリア・オカシオ = コルテスとベト・オルークの名を挙げた。

その後、フロアからの質疑に入り、一部の学生との質疑は 1 時間近く延長して続けられた。

極めてホットで、かつ中村先生が言及されたようにアカデミアでは為し得ないインタビューの蓄積に基づいた講演をし、更に時間を延長して学生の質疑に対応してくださった及川氏に、改めて感謝したい。